令和7年度

サッカーキャンプ誘致戦略推進事業

実施報告書
(概要版)

令和8年3月

沖縄県文化観光スポーツ部　スポーツ振興課

目　次

第一章　事業実施概要

(1)事業目的
① 本事業の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
(2)事業方針
② 今年度の事業展開方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第二章　事業実施内容

(1) サッカーキャンプ誘致活動の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

(2) トレーニングマッチのコーディネート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

(3) キャンプ地の情報発信及び機運醸成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

(4)-1 沖縄サッカーキャンプの経済波及効果検証等の調査・・・・・・・・・・・・・ 12

(4)-2 リーグシーズン移行に係る意向調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

(5) サッカーキャンプ受入市町村等意見交換会の設置・運営・・・・・・・・・・・・ 14

(6) クラブチームと受入市町村の交流支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

第三章　次年度事業への提言

(1)事業の振り返りと次年度への提言
① 今年度事業の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
② 次年度以降への提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

第一章　事業実施概要

第一章(１)事業目的

①本事業の目的

■事業目的

沖縄県では、沖縄観光の新たな魅力の創出や着地型観光の拡充等を図るため、スポーツツーリズムを推進しており、現在、国内外から多くのプロサッカーチーム等のスポーツキャンプが集積し、日本有数のキャンプ地を形成している。

全国的にスポーツキャンプ等誘致の地域間競争が激しくなる中、サッカーキャンプの定着化・集積化の効果等の周知や理解促進を図るとともに、サッカーキャンプを目的とする観光を今以上に推進するためキャンプ期間中の来訪への動機作りやサッカーキャンプ実施チームとの連携が必要であると考えている。

そこで、本事業をとおして、サッカーキャンプ実施チーム、市町村及び関係団体と連携しつつ、キャンプ地の情報発信を行うことで、キャンプ期間中の来訪者の増加、地域の活性化、経済効果の向上、サッカーキャンプの維持・拡大を図るとともに、キャンプ開催地としてのブランド化を目指す。

■事業内容詳細

(1) サッカーキャンプ誘致活動の実施
(2) トレーニングマッチのコーディネート
(3) キャンプ地の情報発信及び機運醸成
(4) 沖縄サッカーキャンプの経済波及効果検証等の調査及びＪリーグシーズン移行に係る意向調査
(5) サッカーキャンプ受入市町村等意見交換会の設置・運営
(6) クラブチームと受入市町村の交流支援

②今年度の事業展開方針

■本事業における令和6年度までの成果

（１）継続した事業によるキャンプの集積化

（２）沖縄サッカーキャンプの情報発信体制の構築

▶ **これまでの本事業の展開において一定の成果をあげてきたと考えられる。**

■本事業における課題

（１）シーズン移行に伴う、クラブ減少のリスク

（２）県外誘客のプロモーション施策に課題あり。

▶ **シーズン移行によりキャンプを取り巻く環境が変化する中、沖縄県全体でのサッカーキャンプ発展に向けた取組強化が必要。**

■令和7年度の誘致方針

「受け身のスタンス」からの脱却

■令和7年度の誘客方針

県外誘客に重きを置いたアプローチ

▶ **沖縄サッカーキャンプGM（ゼネラルマネージャー）に髙原直泰OSV代表を起用！**

「サッカーキャンプと言えば沖縄」ブランド化を目指す

第二章　事業実施内容

第二章(１)サッカーキャンプ誘致活動の実施

①誘致活動

①-1　髙原GMによるアプローチ

沖縄サッカーキャンプGMである髙原GMによるトップセールスで、下記のチームを誘致。

■トップセールスの成果 ※一部抜粋

①古巣ジュビロ磐田クラブ初の沖縄キャンプ決定（2026年夏）

②湘南ベルマーレ夏季キャンプの早期決定（2026年夏）

③サンフレッチェ広島離島石垣キャンプの誘致実現（2026年冬）

①-2 プラットフォームの構築

関係者が多く情報共有が難しいという課題に対し、今年度は各種日程や受入状況を一元管理するプラットフォームを整備し、迅速な情報共有と調整が可能な体制を構築した。

①-3　キャンプ実施を検討しているクラブの視察アテンド

今年度は、冬キャンプに向けて7件、夏キャンプに向けて6件、大学1件の合計14件のクラブ・大学に対してアプローチおよび視察対応を実施した。



■夏キャンプにおける優位性　※クラブヒアリングより

ヒアリングを通じて、沖縄の夏キャンプは暑熱順化に適した環境に加え、受入実績やトレーニングマッチ、移動面での利点があることを整理した。あわせて、降水量データを提供し、クラブの懸念解消と実施判断を支援した。

①-4　ホテルヒアリング

事務局体制変更に伴い連携強化を目的として、夏季の受入可能性確認のため前年度、沖縄サッカーキャンプ受入実績のある18ホテルへのヒアリングを実施した。

■キャンプの受入意向

冬キャンプ（1月～3月）

冬季は全ホテルで受入可能であり、既に仮予約も進んでいることから受入体制が整っていることを確認した。

夏キャンプ（6月～8月）

夏季は繁忙期のため受入可否が分かれる一方、6月～7月中旬であれば対応可能な施設も多く、全体として前向きな意向を確認した。

②誘致実績

■冬キャンプ実施クラブ

令和7年度は23クラブが沖縄にて冬キャンプを実施。内訳は、Jクラブ15クラブ、女子3クラブ、大学3クラブ、海外2クラブであり、1月から3月にかけて来沖した。

No	チーム名	区分	人数	開始日	終了日	日数	場所
1	FC東京	J1	56	2026/1/12	2026/1/24	13	糸満市西崎陸上競技場
2	川崎フロンターレ	J1	65	2026/1/12	2026/1/24	13	赤間総合運動公園
3	浦和レッズ	J1	70	2026/1/7	2026/1/24	18	金武町フットボールセンター
4	ガンバ大阪	J1	70	2026/1/12	2026/1/25	14	吉の浦公園ござまる陸上競技場
5	京都サンガ	J1	60	2026/1/11	2026/1/24	14	東風平運動公園
6	ヴィッセル神戸	J1	70	2026/1/11	2026/1/24	14	西原町民陸上競技場
7	名古屋グランパス	J1	60	2026/1/11	2026/1/24	13	黄金森公園陸上競技場
8	FC町田ゼルビア	J1	80	2026/1/11	2026/1/24	14	Enagicスタジアム名護
9	サンフレッチェ広島	J1	60	2026/1/11	2026/1/16	4	石垣市サッカーパーク
		J1	60	2026/1/17	2026/1/18	2	糸満市西崎陸上競技場
10	北海道コンサドーレ札幌	J2	60	2026/1/12	2026/1/25	14	金武町陸上競技場
11	サガン鳥栖	J2	60	2026/1/7	2026/1/17	11	ZANPAプレミアムボールパーク
12	湘南ベルマーレ	J2	60	2026/1/19	2026/1/24	6	ZANPAプレミアムボールパーク
13	水戸ホーリーホック	J2	60	2026/1/14	2026/1/24	11	豊見城総合運動公園
14	RB大宮アルディージャ	J2	80	2026/1/14	2026/1/24	11	県総合運動公園
15	V・ファーレン長崎	J1	70	2026/1/12	2026/1/24	13	読谷村陸上競技場
16	アルビレックス新潟レディース	女子	30	2026/1/26	2026/2/8	14	南城市陸上競技場
17	SEISA　OSAレイア湘南FC	女子	25	2026/2/28	2026/3/4	5	サッカーパークあかんま
		女子	25	2026/3/5	2026/3/8	4	Enagicスタジアム
18	ASC北海道レディース	女子	30	2026/2/21	2026/2/24	4	南城市陸上競技場
19	神奈川大学	大学	100	2026/2/2	2026/2/16	15	うるま市多種目競技場
20	静岡産業大学女子	大学	20	2026/2/6	2026/2/9	4	名桜大学サッカーグラウンド
21	青山学院大学	大学	80	2026/2/23	2026/3/1	7	ZANPAプレミアムボールパーク
22	中山工商女子足球隊	海外	20	2026/2/21	2026/2/25	5	南城市陸上競技場
23	鳳西國中女足隊	海外	20	2026/2/21	2026/2/25	5	南城市陸上競技場

第二章(１)サッカーキャンプ誘致活動の実施

■夏キャンプ受入決定クラブ

令和8年度夏キャンプについて、Jクラブを中心に8クラブの受入が決定。※令和8年3月20日現在

No	チーム名	区分	人数	開始日	終了日	日数	場所
1	浦和レッズ	J1	未定	調整中	調整中	調整中	金武町フットボールセンター
2	V・ファーレン長崎	J1	未定	調整中	調整中	調整中	吉の浦公園ござまる陸上競技場
3	京都サンガ	J1	未定	2026/7/13	2026/7/27	11	東風平運動公園
4	サガン鳥栖	J2	未定	2026/7/6	2026/7/16	10	ZANPAプレミアムボールパーク
5	アルビレックス新潟	J2	未定	2026/7/5	2026/7/21	16	八重瀬町スポーツ交流施設
6	ジュビロ磐田	J2	未定	2026/6/29	2026/7/17	19	糸満市陸上競技場
7	藤枝MYFC	J2	未定	2026/7/16	2026/7/25	9	具志川多種目競技場
8	湘南ベルマーレ	J2	未定	調整中	調整中	調整中	Enagicスタジアム

■夏キャンプ受入検討クラブ

現在、下記4クラブについても夏季キャンプ受入に向け、検討中。 ※令和8年3月20日現在

No	チーム名	区分	人数	開始日	終了日	日数	場所	宿泊
1	町田ゼルビア	J1	未定	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中
2	高知ユナイテッドＳＣ	J2	未定	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中
3	FC大坂	Ｊ２	未定	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中
4	シンガポール代表	海外	未定	2026/7/8	2026/7/18	10	黄金森陸上競技場(予定)	ノボテル（予定）

■冬キャンプまとめ

Jリーグのシーズン移行に伴う環境変化の中、Jクラブに加え女子・大学・海外チームの誘致を進め、計23クラブのキャンプ受入を実現し、石垣市での開催も達成した。

■夏キャンプまとめ

シーズン移行を見据え夏季キャンプ誘致を強化し、8クラブの受入が決定、さらに増加の可能性も確認。課題はあるものの、既存の連携体制により受入可能であることを確認した。

■今後のキャンプ誘致展開

今後は、冬季キャンプに加え夏季キャンプの誘致を進め、キャンプ時期の分散化を図り、年間を通じた受入体制の構築を進めるとともに、沖縄県全体としてのサッカーキャンプの更なる発展とブランド化の推進につなげていく必要がある。

第二章(2)トレーニングマッチのコーディネート

①　Jクラブによるトレーニングマッチ

クラブニーズに応じたマッチコーディネートを行い、スケジュール管理により円滑な調整を実現し、Jクラブのトレーニングマッチ32試合を実施した。

②　Jクラブ以外のトレーニングマッチ

Jクラブのトレーニングマッチに加えて、女子、大学、海外クラブのカテゴリー横断のマッチコーディネートも実施。合計26試合を開催した。

③　トレーニングマッチコーディネートにおける審判委員会との連携

令和7年度からは審判委員会と連携し、審判情報や謝金体系を事前にクラブへ共有する仕組みを整えたことで、クラブからの信頼向上と未然のトラブル防止につなげた。

④県内クラブとのトレーニングマッチの提案

対戦相手を求めるクラブに対し、Jクラブに加え県内クラブとのトレーニングマッチを提案・調整し、36試合を実施。これにより対戦機会を創出し、県内クラブの競技力向上に寄与した。

第二章(3)キャンプ地の情報発信及び機運醸成

①　モニターツアー



サッカーファン向けにモニターツアーを実施し、沖縄キャンプの魅力を体験・発信することで認知向上と来沖動機の創出を図った。

■成果

WEB募集で358名の応募があり関心の高さを確認するとともに、SNSや動画発信により来沖イメージの創出につなげ、制作した動画は次年度以降も活用する。

②　AIカメラによるライブ配信の実施



石垣市にてNTT Sporticと連携し、AIカメラによるトレーニングマッチのライブ配信を実施。約7,500人・総視聴8.5万回を記録し、オンラインでの接触機会を創出し認知向上につなげた。

③　那覇空港における歓迎装飾の実施



那覇空港1階出入口にて歓迎装飾を実施し、観光客導線上でPRを展開。認知向上とキャンプ期間中の機運醸成に加え、来訪観光客の観戦動機の創出を図った。

④　サッカーキャンプ公式WEBサイト



公式WEBサイトをリニューアルし、トレーニングマッチ日程をトップページに掲載して利便性を向上。フォトギャラリーや周遊キャンペーン案内を追加し、キャンプの魅力発信と観戦から観光への誘導を強化した。

⑤　SNSでの情報発信



X公式アカウントでキャンプ期間に合わせて集中的に情報発信を行い、トレーニングマッチや練習変更情報を迅速に共有。観戦予定のサポーター向けの情報提供ツールとして機能した。

⑥　地元紙での情報発信



沖縄タイムス社および琉球新報社のスポーツ欄においてトレーニングマッチ情報を掲載。県民に対する沖縄サッカーキャンプの認知向上およびトレーニングマッチ情報の周知を図った。

⑦　YouTuberとのコラボ



元プロサッカー選手で現在YouTube等で活動する森脇良太氏と連携し、髙原直泰氏出演の対談動画を制作・配信。3,905回再生を記録し、コアなサッカーファン層に向けてキャンプの魅力や見学の楽しみ方を発信し、認知向上と次年度以降の来沖促進につなげた。

第二章(3)キャンプ地の情報発信及び機運醸成

⑧　ホームゲームでのプロモーション



　川崎フロンターレvsアビスパ福岡戦、湘南ベルマーレvs清水エスパルス戦の会場にて、髙原直泰氏によるトークショーを実施。計34,593人に沖縄キャンプの魅力を発信し、認知向上と来沖動機の創出につなげた。

⑨　試合のエンタメ性向上による誘客



　トレーニングマッチをイベント化し、会場演出や交流企画等を組み合わせることでエンタメ性と話題性を高め、誘客力向上を図った。沖縄SVとV・ファーレン長崎の試合で観戦イベントを実施。

■来場などにおける成果

　トレーニングマッチにエンタメ要素を加え観戦イベント化した結果、平日午前にも関わらず150名以上が来場し、試合目的の来場者を創出。観戦機会の提供や地域のにぎわい創出につながり、クラブからも評価される今後活用可能な取組となった。

⑩　記者会見



　キャンプ開幕に合わせ記者会見を実施し、クラブ情報や見どころを発信。夕方ニュースでの露出を狙い時間設定を工夫し、沖縄タイムス・琉球新報をはじめ新聞・テレビ・ラジオ・WEBで広く報道され、認知拡大と機運醸成につなげた。

⑪　ガイドブック



　沖縄サッカーキャンプの認知向上および県内からのキャンプ来場促進を目的として、ガイドブックを30,000部制作し、県内83箇所で配布するとともにWEBでも公開。早期配布と観光特典キャンペーンと連動させ、認知向上と県内外からの来場・周遊促進を図った。

⑫　周遊施策



　観光客とキャンプの接点創出を目的に、レンタカー協会や観光施設と連携した周遊施策を実施。ガイドブック配布や特典連動により、キャンプ見学と観光を組み合わせた周遊促進と地域消費の向上を図った。

■成果

　特典利用は計166名となり、観光施設での消費行動の創出に寄与。レンタカーや特典施策により観光客とキャンプの接点を生み、周遊促進と地域消費拡大の可能性を確認した。

⑬　県外でのTV番組放送



　県外からの来訪者の増加を目的として、キャンプ受入を行っている自治体の魅力やサッカーキャンプの様子を紹介する県外向けのTV放送を全国18局にて発信した。

第二章(4)-1 沖縄サッカーキャンプの経済波及効果検証等の調査

①　調査のまとめ

本キャンプの沖縄県全体の経済波及効果は約27億2,798万円となり、うち県内総生産に相当する粗付加価値誘発額は8億1,640万円となる。この中で雇用者へ支払われた賃金等である雇用者所得誘発額は3億7,730万円で、雇用誘発効果は約228人と見積もられる。沖縄県内における域内需要増加額に対する経済波及効果の総効果は、約1.4倍と試算される。

単位：百万円

	経済効果 （生産誘発額）	粗付加価値 誘発額	雇用者所得 誘発額	雇用者 誘発数
直接効果(域内需要増加額)	1,952	417	200	—
間接1次生産誘発効果	508	228	112	—
間接2次生産誘発効果	269	172	65	—
総効果(経済効果)	2,728	816	377	228
波及効果（波及倍率）	(1.4)　＝総合効果/直接効果			

■キャンプ実施クラブ・団体の状況

2026年１月～3月の対象期間に沖縄県内において本事業の対象となったサッカーキャンプを実施したクラブ・団体は全23チーム（前年27）となった。内訳は国内クラブチームは、J1が11チーム（前年12）、J2・J3が4チーム（前年7）で、他に、なでしこ・大学等が8チーム（前年8）となった。

キャンプ実施クラブ

J1（11）	J2・J3（4）	なでしこ、大学等（8）
名古屋グランパス サンフレッチェ広島 FC町田ゼルビア 川崎フロンターレ ヴィッセル神戸 京都サンガF.C. 株式会社ガンバ大阪 FC東京 浦和レッズ V-ファーレン長崎 水戸ホーリーホック	サガン鳥栖 RB大宮アルディージャ 湘南ベルマーレ コンサドーレ	アルビレックス新潟レディース SEISA OSAレイア湘南FC 神奈川大学 青山学院大学 静岡産業女子大学 ASC北海道レディース 中山工商女子足球隊（台湾） 鳳西國中女足隊（台湾）

第二章(4)-2 リーグシーズン移行に係る意向調査

■実施概要

Jリーグのシーズン移行に伴う沖縄キャンプ実施意向について、今年度沖縄でキャンプを実施したJクラブを対象にアンケート調査を実施した。シーズン移行によりキャンプ実施時期の変更が想定される中今後の沖縄キャンプの継続性や実施時期の動向を把握することを目的として調査を行った。

■調査結果

令和7年度の冬キャンプを実施した15クラブに対してアンケートを実施。うち11件から回答を得た。「夏キャンプ・冬キャンプどちらも実施」が7件、「冬キャンプのみ実施」が4件、「夏キャンプのみ実施」という回答が0件だった。

① 今後のキャンプのあり方の提言

■誘致活動

Jリーグのシーズン移行に伴い、沖縄のサッカーキャンプは冬季中心から実施時期の多様化が見込まれアンケートでも夏季実施ニーズの存在が確認された。そのため、今後は夏季を含めた通年型の受入体制構築が重要である。また、クラブからは芝生管理や散水・シャワー設備、トレーニング機材の充実といった要望も挙がっており、施設環境の整備と受入体制の強化が誘致拡大の鍵となる。

■経済効果

経済波及効果はクラブ数やキャンプ日数の減少により約8.4%減となった一方、1日あたりの経済効果は増加しており、質の向上が見られる。今後はクラブ数・日数の確保に加え、夏キャンプ誘致による通年化やシーズンによる消費単価の向上が重要となる。また、キャンプ見学と観光を組み合わせた周遊施策を推進し、来訪者の消費拡大を図ることで、経済効果30億円規模への回復とさらなる拡大を目指すことが求められる。

第二章(5)サッカーキャンプ受入市町村等意見交換会の設置・運営

①　サッカーキャンプ受入市町村等意見交換会の開催

キャンプ誘致から実施に向けて、各自治体の事業発展や情報共有を目的に、3回に渡り受入市町村等意見交換会を実施した。

■第1回サッカーキャンプ受入市町村等意見交換会

日時：令和7年8月15日（金）13:00～14:30
会場：沖縄IT津梁パーク（沖縄県うるま市州崎14-17）
内容：・今年度の事業施策及び事業計画、
・市町村促進事業
・2026年シーズン移行における誘致の考え方についての説明
・意見交換



■第2回サッカーキャンプ受入市町村等意見交換会

日時：令和7年11月26日（水）13:00～14:30
会場：シャボン玉石けん くくる糸満（沖縄県糸満市潮崎町1丁目1）
内容：・事業の進捗状況
・市町村促進事業
・名古屋グランパスエイト佐藤氏による講演
・スポーツ協会より贈呈品支援事業に関する説明
・意見交換



■第3回サッカーキャンプ受入市町村等意見交換会

日時：令和8年3月12日（木）13:00～14:30
会場：沖縄IT津梁パーク（沖縄県うるま市州崎14-17）
内容：・本事業を通じて得た成果や課題の共有
・次年度夏季キャンプの可能性に関する情報共有
・南風原町によるクラブとの連携事例の紹介
・意見交換



第二章(６)クラブチームと受入市町村の交流支援

①　サッカー教室

沖縄市の小学生を対象に、RB大宮アルディージャによるサッカー教室と夢授業を実施し、選手・スタッフとの交流機会を創出。実技指導を通じてサッカーの楽しさやスポーツへの意欲向上につなげた。



②　選手による夢授業

夢授業では選手の経験や夢の大切さを伝える講話とワークショップを実施し、子どもたちのキャリア教育の機会を創出。事務局が学校・クラブ・自治体と連携し企画・調整を行い、教育的な社会効果につながる取組となった。



③　中学校での事業系スタッフによるキャリア講話

沖縄市立美東中学校にて、フィリップ・ヴンダーリッヒ氏（RB大宮アルディージャ）を講師に招き、スポーツビジネスやキャリア形成に関する講話とワークショップを実施。生徒が将来の進路や働き方について考える機会を創出するとともに、事業系スタッフの活用により柔軟な実施と交流の幅の拡大につながった。



④　オンラインを活用した地域交流

アルビレックス新潟レディースと玉城小学校をオンラインでつないだ交流授業を実施し、給食メニューの共同検討からキャンプ時の給食交流へと発展。対面とオンラインを組み合わせた継続的な地域交流モデルとして、スポーツを通じた社会的効果の創出につなげた。



第三章　次年度事業への提言

第三章(1)事業の振り返りと次年度への提言

①今年度事業の成果と課題（誘致）

誘致に関する主な成果と課題は、下記のとおりである。

■成果

（1）冬・夏30クラブの誘致達成

Jリーグのシーズン移行に伴い、各クラブのキャンプ実施時期や実施方針が不透明な状況であったが関係者との継続的な調整や誘致活動を行った結果、このような状況下においてもキャンプ誘致を実現することができた。

（2）4年ぶり石垣島にJクラブを誘致達成

重点事項であった離島誘致については、関係市町村や宿泊施設、関係団体等と連携し、受入体制の調整やクラブへの誘致活動を行った結果、離島でのキャンプ実施につなげることができた。

（3）大学・女子クラブの誘致達成

ワンスポ沖縄がこれまで構築してきたJリーグクラブや関係団体等とのネットワークを活用することでキャンプ誘致を実現することができた。

■課題

誘致クラブ数

冬季キャンプ及び夏季キャンプを合わせて30クラブの誘致を達成することができた一方、冬キャンプ単体で見るとJリーグのシーズン移行に伴い、これまで沖縄でキャンプを実施していたクラブが予算などの事情から沖縄以外のホームタウンの近隣でキャンプを実施する、またはキャンプ自体を実施しないなど、キャンプ実施数の減少につながった。このような状況を踏まえ、今後は沖縄キャンプの実績のあるクラブの継続実施、定着化に向けた取組に加え、新規クラブの誘致や夏季キャンプの誘致等を進め、外的要因に左右されにくい通年型のキャンプ地としてのブランド化を図っていく必要がある。

離島でのキャンプ

今年度は4年ぶりに石垣市でのJクラブキャンプが実現したが、離島は本島と比較して移動や輸送、施設面などの制約があることから誘致が難しいため、離島でキャンプを実施する意義や魅力をクラブに対して十分に伝えていくことが重要である。離島ならではの魅力を整理し、クラブや関係者に対して積極的に発信していくことで、離島キャンプの定着化及び新規誘致につなげていく必要がある。

大学・女子クラブの誘致

今年度は、大学チーム及び女子クラブのキャンプ実施が実現でき、受入チームの多様化を図ることができた。一方で、これまでの誘致はJクラブを中心とした活動が多く、大学や女子クラブ、海外クラブ等に対する誘致活動の機会はまだ十分とは言えない状況である。今後は、Jクラブ以外のカテゴリーについても積極的な誘致活動を行う必要がある。

第三章(1)事業の振り返りと次年度への提言

①今年度事業の成果と課題(誘客および消費拡大)

誘客および消費拡大に関する主な成果と課題は、下記のとおりである。

■成果

（1）誘客に向けた取り組みで一定の成果

Jリーグホームゲーム（県外）プロモーションやトレーニングマッチのショーアップなど誘客に向けた取り組み等により、一定の成果が見られ、サッカーキャンプ期間中の来場者の増加や地域内での消費拡大につながった。

（2）コアなファンを中心に魅力をアピール

髙原GMの知名度を活用してコアなファン層を中心に沖縄キャンプの魅力を発信し、認知度向上及び来沖意欲の向上を図った。

（3）初の周遊モデルの構築

レンタカー会社や道の駅と連携した、観戦と観光を組み合わせた周遊を促進することで、地域内での消費機会の創出を図った。

■課題

話題性の創出

誘客に向けた取り組みについては、一定の成果が見られ、キャンプ期間中の来場者の増加や地域内消費の拡大につながったと考えられる。一方で、これらの取組は従来型の広報・PR施策が中心となっており、大きな話題を生み出す取組や情報拡散力の高い施策の実施には至っていない状況である。近年はSNS等の普及により、話題性のある取組や参加型・体験型のイベント等が情報拡散や誘客に大きな影響を与える傾向にあることから、従来の広報施策に加え、新たな話題性を創出する取組を実施していくことが必要である。

タビマエの情報発信

主にサッカーファンなどのコア層に向けた情報発信が中心となり、キャンプ地の魅力やトレーニングマッチ情報等を発信することで、一定の誘客効果が見られた。一方で、沖縄キャンプを目的とした旅行の検討段階、いわゆる「タビマエ」におけるキャンプ来訪の具体的なイメージを創出する情報発信については十分とは言えず、キャンプ見学と観光を組み合わせた旅行イメージの訴求については課題が残る結果となった。

周遊施策の拡大

レンタカー事業者や観光施設等と連携した周遊施策の実証を行い、キャンプ地周辺の観光施設への来訪促進及び地域内消費の拡大に向けた取組を実施した。一方で、本施策は対象エリア及び対象施設を限定した実証的な取組であったことから、利用者数や経済効果の面では効果が限定的であり、沖縄全体での周遊促進という点では課題が残る結果となった。

②次年度以降への提言（誘致）

誘致に関する提言は、下記のとおりである。

■誘致に関する提言

トップセールスによるクラブ誘致の強化

今後のサッカーキャンプ誘致においては、地域間競争が激しくなっている中で、より確実にキャンプ実施につながる誘致活動を行っていく必要がある。特に、J1クラブをはじめとした予算規模が大きく、キャンプ実施の継続性が高いクラブは、宿泊日数や参加人数も多く、地域への経済効果も大きい。これらのクラブを重点誘致対象として位置付け、優先的にトップセールスを実施していく必要がある。

そのためには、クラブの予算規模、キャンプ実施実績、実施時期の傾向、キャンプ地決定に関わるキーマン等の情報を整理し、実施確度、キャンプ規模、経済効果等を踏まえた優先順位を設定したうえで戦略的な誘致活動を実施していくことが必要である。これらの取り組みを実施することで、実施確度の高いクラブの継続的な確保による経済効果の向上を図り、沖縄県全体としてのキャンプ地ブランドの維持・向上につなげていくことに有効である。

また、今年度取り組んだ各種地域交流をさらに促進し社会的効果の創出も目指す。

撤退クラブへの再アプローチによる実施クラブ数の確保

実施クラブ数を安定的に確保していくためには、新規クラブの誘致だけでなく、過去に沖縄でキャンプを実施していたクラブへの再アプローチを強化していくことが必要である。過去に実施実績のあるクラブは沖縄の受入環境を理解しているため、新規クラブと比較して調整が進みやすく、実施につながる可能性が高いと考えられる。

そのため、撤退理由や課題の情報収集・整理を行い、課題解決に向けた提案や受入条件の調整を行うことで、再度キャンプ実施につなげていくことが必要である。

Jクラブ以外（大学・女子・海外）の誘致強化

実施クラブ数の確保及び通年型キャンプ地としての定着を図るためには、Jクラブだけでなく、大学、女子チーム、海外クラブ等への誘致を強化していくことが必要である。特に大学チームは、Jクラブと異なる時期にキャンプを実施する可能性があることから、年間を通じたキャンプ実施につながる可能性がある。

今後は、これまで構築してきたネットワークを活用し、Jクラブ以外の誘致活動を強化することで、実施チームの多様化を図り、通年型キャンプ地としての定着につなげていくことが必要である。

②次年度以降への提言（誘客およびプロモーション）

誘客およびプロモーションに関する提言は、下記のとおりである。

■誘客及びプロモーションに関する提言

プロモーションのさらなるエンタメ化

トレーニングマッチやキャンプ観戦について、キッチンカーの出店、グッズ販売、トークショー、沖縄文化体験、ナイトイベント等を組み合わせた観戦イベントとして実施し、観戦そのものをイベントとして楽しめるコンテンツとして展開する。特にナイトイベント等の観光客が来場しやすい時間帯のコンテンツを組み合わせることで、コアなサッカーファンだけでなく、観光客や県民などライト層の来場促進につなげる。これにより、キャンプ見学者数の増加及びキャンプ地周辺のにぎわい創出につなげる。

タビマエのプロモーションのビジュアル化

県外のサッカーファンに対して、沖縄キャンプの様子や観戦と観光を組み合わせた滞在イメージを映像や写真等のビジュアルコンテンツを活用して発信する。ブランドムービーの制作やキャンプ映像の配信、WEB・SNSでの映像コンテンツ発信等を行い「沖縄キャンプに行くとどのような体験ができるか」を具体的に伝えることで、来沖前の段階での来訪イメージの創出につなげる。これにより、沖縄キャンプを目的とした来沖動機を訴求していく。

周遊施策の県全体へ拡大

レンタカー会社と連携した車両マグネットの掲出や、観光施設・道の駅等と連携した特典キャンペーン、市町村のデジタルサイネージを活用したキャンプ情報の発信等を実施し、キャンプ見学と観光を組み合わせた周遊モデルを構築する。現在一部地域で実施している周遊施策を県内各地域へ展開することで、キャンプ見学者の県内周遊を促進し、キャンプ地周辺だけでなく県内各地域での消費拡大が期待される。